

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	世田谷区松原 1-11-4
園名	世田谷区立 松原北保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「あそびの種見つけた」～この庭は遊びの種がいっぱい。草花、光、音や風と遊びながら、自分で考え、自分で動き、自分で見つけた種を育てていこう～

<テーマの設定理由>

園庭に起伏があり、樹木が多く、むくろじ、柿、梅、びわ、栗などの実が落ちてくる園庭を活かした活動を行っている。また、虫が集まる場所として「むしむしランド」を子どもたちが作り、昆虫や植物に触れる機会が多い。すくわくプログラムを通し、その環境をさらに豊かにしていき、より子どもたちに身近な環境に触れることができるようにしていきたいという想いのもと、テーマ設定に繋げる。日々の保育の中で味わえる発見や不思議、探求心がより育まれる保育環境を目指していくことをねらいとした。

2. 活動スケジュール

テーマを3つのグループに分かれて活動を進めていくことにする。

① 自然(むしむしランド)

夏ごろに虫網、虫かご、観察・飼育ケースを購入し昆虫採集を楽しむ

② 園庭環境(アドベンチャーランド)

秋頃、スラックラインを購入し、園庭遊具の環境充実を図る

③ 室内環境(にこ・うき ラボ)

秋頃、自然環境への興味関心が湧くように、新たな絵本棚及び、絵本図鑑等を購入。
また子ども自ら自発的に観察や創造意欲が湧くような素材や遊具棚を設置。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

3つに別れたグループごとに、それぞれに必要な物品を準備していく。

※ 2、の活動スケジュール欄参照

加えて、園庭環境整備として、ベンチ、テーブルセットを購入。子どもたちがベンチで一息つき、テーブルで砂場遊具と共にままごと遊びを発展していくことができるように設定していった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

お便り参照

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

まつきたタイムス

令和8年3月18日

まちに待ったおひさま組お別れお楽しみ会の日がやってきました！
各クラス「何を作ろうかな〜？」とそれぞれアイデアを出し合って考え、今日に向けてたくさん準備をしてきました！アスレチック、お店屋さん、ゲームコーナー、お弁当…盛りだくさんなお楽しみ会の様子をお届けします♪

たんぽぽ組 おすし屋さん

いらっしやいませ〜！

えびと、マグロとサメと
サーモンください！

ぜんぶで300円
です！

さくら組 バーベキューごっこ

さくら組は、バーベキューごっこに合う料理を作ってくれていました。
「こんなのがいーいじゃない？」と意見が沸々としてきて、毎日の制作も盛り上がっていました。みんなから「どれもおいしそう！」という声が上がっていました。こだわりが伺える料理ばかりでした！

おひさま組 緑日

おひさま組は緑日コーナーということで、焼きそば屋の出店をして
くれました。へらの使い方が、もう慣れた手付きで、まるで本物さながら。
焼きそばはソースとしょうゆが用意してあって、本格的。見た目から
美味しいってこういうことか！が分かるお店でした。

ゲームコーナー

アスレチックコーナー

おべんとう

給食は調理室の協力もあり、お
弁当仕様にしてもらいました。蓋
を開けて、大喜びの子どもたち！
タコさんウィンナーもあり、緑日
などのごっこ遊びの延長で、実際の
給食を楽しく食べていくことが
できました。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

① むしむしランド

これまで興味のある子が中心となっていた虫探しであるが、虫網や飼育ケース、観察遊具などを用意していくことで、それまで虫への興味がなかった子が、自然への興味関心、探求する気持ちが生まれていった。特に細かいところまで気が付き発見していく、子どもの“見つける目”が育まれていっていることに気が付くことができた。ダンゴムシの腹部の形状、てんとう虫の星の数など、それまで捕まえることが主としていた遊びから、観察して楽しむ・発見して学ぶという遊びへ繋がっていくことができたと感じる。その細かな発見を、子どもと共感し、保護者自身も学びを得る保育実践を大切にしていきたい。

② アドベンチャーランド

自園では、老朽化した固定遊具の撤去という大きな園庭環境の変化があった。固定遊具がなくなった園庭で、子どもたちの「運動をして楽しむ」という気持ちと豊かな運動機能を高めていくためにはどうしたらよいのかを課題に、「様々な運動をして楽しめる環境」設定をしていった。購入したスラックラインの設置で、普段は経験することの少ない、ぶら下がるや引っ張る、バランスをとって渡るなど、子どもの巧緻性やバランス力を豊かに経験し楽しんでいくことができるようになった。また、保育者の工夫した運動遊びの環境設定により、「まるでキャンプみたい」「キャンプをやりたい」という子どもの言葉があり、キャンプごっこをするなど遊びの幅が広がっていく。そのキャンプごっこが子どもたちの想像力を掻き立て、身近な素材を使って様々な料理を作り、幼児クラスを中心としたお楽しみ会へ繋がっていくこともできた。

運動する環境を整えていくことで、豊かなごっこ遊びへの創造に繋がっていくという、新たな学びを園全体として共有していくことができ、そしてその学びを今後も深めていきたい。

③ にこ・うき ラボ

子どもたち自らが自発的に様々な素材やその環境に触れていくことができ、さらなる探求心を深めていく意欲を育むことができた。たくさんの絵本や図鑑などを通し、子どもたちが「先生見てこれすごいよ!」と言う驚きの表情とともに、更なる学びを得ていく姿を目の当たりにする。子どものその学びや発見、驚きを共有していく保育の楽しさというものを改めて感じ取ることができた。また様々な素材を自由に使えることを目的とした遊具棚は、子どもたちのその自由で豊かな発想力で“作る”を楽しんでいく生き生きとした表情が垣間見え、保育者もどのような素材を用意していくか、適切かを考えていくきっかけとなる。遊具棚の設置では、どうしたら子どもたちがもっと使いやすくなるか、またその運用方法について、子どもたちの様子を見ながらより良いものへとしていくようにする。

